

## 学校教育目標

1	智と徳を兼ね備え、社会に貢献できる自立心豊かな近代女性の育成を目指す学校
2	尚絅で学んで良かったと生徒・卒業生・保護者が真に思う学校
3	地域で存在感のある学校

## 重点目標

1	特色ある学校づくりによる「尚絅らしさ」の追求
2	基礎学力の涵養と部活動の推進による進路志望の実現
3	掃除・挨拶・礼法等の指導の徹底による豊かな人間性と社会性の育成
4	地域に貢献する開かれた学校づくり

自己評価総括のランクは、ABCの3段階とし、次頁以降の「自己評価」で2/3以上A評価となった重点目標項目を「A」ランク、2/3以上A又はB評価を「B」ランク、それ以外を「C」ランクとしている。

## 重点目標に対する自己評価総括

1	教育内容の改革と尚絅らしさの追求	B	「人間教育プログラムの充実」および「国際交流の推進」については概ね達成できた。特に外部講師の招聘による講演会やマナー検定、図書館教育は順調に推進して目標を達成した。一方、魅力ある授業の推進は研究授業を実施した後の取り組みが不十分であり、それぞれの授業に反映できていなかった。クラス編成の検討は評価規定の再検討にとどまり今後の更なる検討が必要である。
2	生徒支援改革	B	「教育相談の充実」ではスクールカウンセラーへの相談を希望する生徒・保護者にカウンセリングを実施すると共に寮生を対象としたカウンセリングを実施し好評を得た。また、「部活動の推進」については新たに吹奏楽部と百人一首部の創部により活動を活性化した。また、陸上競技部の5,000m競歩においては初の全国総体優勝を果たした。しかし、日常的な問題に対する環境作りや早期対策には、具体的な指導態勢が必要と考える。
3	学習意欲あふれる生徒の確保	B	「広報活動の推進」では初めての取り組みとして平日19時からナイト説明会を実施したが、かなりの参加を得て好評を博した。しかし、「女子教育の長所を活かした広報」活動では他県の女子校視察を行い広報活動に取り入れたが、十分な分析と実践までには至らなかった。
4	教育指導力の向上	B	大学入試改革に伴う大切な事項であり、校内・校外研修を計画的に実施した。延べ4科目の研究授業を校内で実施すると共に、教科を越えた授業見学を実施した。しかし、各生徒に対応した学力を向上させるという目的においては更なる検討と指導力の向上を模索する必要がある。
5	地域連携の推進	A	本学園の良好な施設設備を活用して、他校と共に合同練習を行うと共に、各種大会の主催者に会場として提供した。また、熊本城マラソンには今年も100名の生徒がボランティアとして参加し、地域の夏祭りや学校周辺の清掃活動を行った。次年度は、校外ボランティア活動について全校生徒へ紹介して生徒の意識を高めたい。

『評価基準』 A:十分達成(85%以上) B:概ね達成(70%以上) C:やや不十分(50%以上) D:不十分(50%未満)

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
教育内容の改革と尚絅らしさの追求	人間教育プログラムの充実	年間計画の策定と実施	教育の柱となる各部の活動を集約し、計画を策定する。	A	年間計画に則り実施し、一定の成果を得た。
		外部組織の積極的活用	外部の専門家の活用により授業以外の専門的知識を深める。	A	各部署の計画案に沿って目的別の講話、研修及び出前授業を実施した。
		尚絅塾の推進	授業での学びを深め、興味関心を喚起し教養を高める。	B	本校にきている留学生との交流会を実施し、海外留学セミナーを開催した。
		礼法教育の推進	礼法教育で学んだ礼儀作法を日常生活の中に活かす。	B	マナー検定を受験して高校1年では中級、高校2年では上級に全員合格できた。
		各種講演会の開催	外部講師の講話・講演を聞き自分の進路実現に役立てる。	A	各部署の年間計画に則って実施、次年度も計画を策定し実施する。
		図書館教育の推進	朝読書を推進し、高い読書目標を掲げるよう意識させる。	A	朝読書アンケートの結果から、本を読む生徒が増えていることが分かった。
	基礎学力の確立	魅力ある授業の推進	教務部を中心に外部講師を招き、授業への指導助言を仰ぐ。	C	外部講師を招聘し理科・書道・英語・保健体育で研究授業を行ったが、授業改善及び主体的取り組みには至っていない。
		課外授業の推進	総合コースで希望者による始業前の朝課外を実施する。	B	一貫・総合コースでは希望制朝課外を習熟度別クラス編成にて実施した。
		尚絅ゼミの推進	放課後、個々の進路志望に対応した課外授業を実施する。	B	放課後を利用して、大学入試に向けて模試や過去問を使った授業を実施した。
		小論文指導の強化	学年に応じた取り組みで指導を徹底し文章力をつける。	B	小論文講座、小論文模試、志望理由書添削等を行い、入試に役立てた。
	各コースの特色作り	自学・自習の習慣化	学習記録帳を活用して、家庭学習の習慣化を定着させる。	B	本校独自の学習記録帳「志」を作成し、時間管理及び家庭学習を指導した。
		カリキュラムの検討	入試改革に向けて委員会で情報収集を行い検討する。	B	外部研修に参加して情報を収集し、検討を進めた。
		クラス編成の検討	コースを活かし教育効果の高い特色あるクラス編成を行う。	C	総合コース選抜クラスの指導について検討し、評価規定を再検討したが、より教育的効果が高い編成までは至らなかった。
	国際交流の推進	進路実績の向上	希望制課外の実施と模試検討会の充実を図る。	B	模擬試験、FineSystem、Kei-Naviを活用して面談や教科指導に役立てた。
		海外修学旅行の実施	中高において海外修学旅行を実施し、異文化理解を深める。	A	シンガポール、台湾への修学旅行の中で学校交流会を実施し、好評を得た。
		姉妹校提携の推進	交流拠点として姉妹校提携を推進し、国際的視野を醸成する。	B	高校の姉妹校提携についてオーストラリアのバースを管理職が訪問して、短期留学から検討することとなった。
		留学の推進と制度の策定	生徒及び保護者に留学情報を提供し、説明会を実施する。	B	留学担当者による幅広い留学情報の提供及び希望者へ専門的アドバイスを行い、留学セミナーを開催した。
		留学生受け入れの推進	外部団体との連携による希望者受け入れを積極的に行う。	B	イタリアとデンマークから各1名の留学生を受け入ると共に、ホストファミリーバンクを設立した。
	中高大連携の推進	ICC利活用の推進	放課後等にICC室を開放し、生徒が活用できるようにする。	A	検定用問題集や洋書・英字新聞を活用した英語学習の場として、多くの生徒が利用した。
		中高大連携事業の推進	総合学園としての特色を活かし確かな進路志望実現を図る。	B	尚絅大学の協力を得て全学年で講義を実施すると共に、尚絅大学・短期大学の説明会が高校1・2年に対して複数回実施された。
学園内進学時の入試改革		学園内進学が促進されるよう高大連携協議会審議を深める。	B	大学、高校相互の報告会及び意見交換会を実施し、生徒の進路指導に役立てた。	
生徒支援改革	中高大職員の交流	入試連絡会を実施し、相互の連携と情報交換を密にする。	C	入試連絡会での情報交換以外には実施できていない。	
	進路指導の充実	進路相談の充実	教育相談、進路ガイダンス、講演会を実施し情報を提供する。	B	高3生は4～5月と夏休みに三者面談を、他学年は4～5月に二者面談と夏休みに三者面談を実施して進路指導を行った。
		進路情報提供の徹底	進路指導の外部研修会に職員を派遣し情報収集を行う。	B	5月に「尚絅通信」、月刊で「春に向かって」を発行して進路情報を提供した。
	教育相談の充実	高大接続テスト対策の検討	文科省で検討されている入試制度等に対する対策を行う。	B	大学入学共通テストプレテストおよび共通テストに対応した東進の模試を受験した。
		生徒支援体制の確立	生徒理解を深め生徒支援の一層の充実と指導の徹底を図る。	B	全職員参加の職員研修を実施し、情報共有を行った。また、支援が必要な生徒・保護者を中心に面談を実施したが、日常的な問題を相談する場や雰囲気作りが課題となる。
		カウンセリングの充実	カウンセリング対象生徒の受診率向上と問題解決に努める。	A	スクールカウンセラーによるカウンセリング及び寮生のカウンセリングを実施した。

『評価基準』 A:十分達成(85%以上) B:概ね達成(70%以上) C:やや不十分(50%以上) D:不十分(50%未満)

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
生徒支援改革	教育相談の充実	保護者向教育座談会の実施	不適応生徒の保護者の悩みを軽減し就学支援の一助とする。	A	教育座談会を8月に実施し、参加者は少数であったが一定の成果は見られた。
		外部組織・人的支援の活用	家庭環境が難しい生徒への支援を県の事業を活用して行う。	A	県私学特別支援相談員派遣事業、時習館ソーシャルワーカー派遣事業を活用した。
	課外活動の活性化と進路保障	生徒会活動の推進	執行部を中心に行事の企画・運営参加により主体性を育む。	B	常任委員会の定期的開催により生徒からの意見を中心とした活動ができた。
		部活動の推進	人間教育の一環として部活動への参加を奨励する。	A	吹奏楽部と百人一首部を創部すると共に、陸上競技部が5,000m競歩で全国総体にて優勝した。
	奨学生制度の活用	課外活動での進学指導推進	部活動等の実績を活かした進路実現を奨励する。	B	部活動での上位成績者が記録を使って大学進学合格を果たした。
		奨学制度活用した生徒支援	学力・特技に秀でた生徒の就学環境をサポートする。	B	育英褒賞、花桜会奨学生を選出して表彰及び授与式を実施した。
	検定試験受験の推進	奨学生制度の再検討	経済的問題を抱える生徒のサポートを再検討する。	B	花桜会奨学生選考における内規において、一部選考基準の見直しを検討した。
		英語検定試験の推進	放課後等を利用し個人指導を行い検定試験合格に導く。	B	英語検定では中学において準2級に5名が合格、高校1年総合コースでは英語検定を全員受験として取り組み高校全体で2級に24名、準2級に42名、3級に83名が合格した。高校2年で準1級に合格した。
	環境美化推進	級別指導の徹底	各種検定合格のための指導計画を作成して実施する。	B	中学では数学検定、高校では英検、漢字検定、ニュース検定を希望する生徒が受検した。
		校内清掃の徹底	監督、指導を徹底して清掃活動に取り組むように促す。	A	10月にダスキンより講師を招聘して教員対象の掃除研修を実施し、指導に役立てた。
学習意欲あふれる生徒の確保	広報活動の推進	環境整備の植物栽培	校内花壇への花の植栽と手入れに取り組む。	B	年間を通して計画性に欠け、手入れも行き届いていない事が多かった。
		保護者会の充実	授業参観・学級懇談を通して教育体制を充実させる。	A	保護者会と共に授業参観を実施して出席率が82%であり、好評を得た。
	育友会との連携推進	総会・委員会活動への協力	育友会役員と校内協力委員の定例会議を開催する。	A	総会を1回、役員会を3回実施し、スムーズな運営ができた。
		地区会の推進と充実	実施計画を策定し、育友会・花桜会の協力を得て実施する。	B	育友会役員との協働による地区会を3地区(天草・阿蘇・上益城)において実施し、好評だった。
		学校行事での連携推進	学校との連携を図り、学校行事の一層の充実に努める。	A	各行事の開催をホームページ等で周知し、育友会の協力を得ながら実施することができた。
		同窓会・後援会の会合出席	学校の現状を知らせる一方、情報収集のために出席する。	A	管理職が総会及び各地区の同窓会懇親会に参加し、学校の現況報告と会員との親睦に努めた。
指導力の向上	職員研修の推進	卒業生名簿の作成	総会及び支部総会等を活用し、卒業生の情報収集に努める。	C	同窓会事務局と協力して作成するところまでには至っていない。
		広報活動の再構築	本校教育の特色・教育の成果を積極的に広報する。	B	オープンスクール・説明会を中学と高校で実施すると共にナイト説明会を初めて実施し好評であった。
	特待生制度の活用	恒常的な訪問活動の推進	中学校訪問は担当を決め、年間を通して訪問する。	B	担当者を定めて中学校および塾訪問を計画的に実施した。
		女子教育の長所を活かした広報	女子校の長所をアピールし、マイナスイメージを払拭する。	C	他校視察を行い、広報活動に取り入れたが、十分な分析や職員への徹底がなされていなかった。
地域連携の推進	地域活動の支援とボランティア活動の推進	育友会・同窓会との連携	学校との連携を図り、学校行事の一層の充実に努める。	B	学校行事や広報に関する情報を随時告知し、ご協力を頂いた。
		特待生制度の活用	学力・特技に秀でた生徒を獲得して牽引者を育成する。	B	各顧問の早期勧誘に加え、各中学校の入試説明会に参加、全職員による学校訪問を行った。
		特待生制度の再検討	より充実した制度とし、生徒獲得に繋がるように取り組む。	B	特技特待生Bの枠を従来より拡大して生徒募集を実施し、前年度の25名から53名に増加した。
指導力の向上	職員研修の推進	校内研修の充実	若手育成を目的とした研修を行い授業力の向上を図る。	B	若手育成研修会は他校視察、私学研修に参加し、自己の指導力向上や意識改革に役立てた。
		外部研修の充実	研修内容を吟味して職員を派遣するほか他校視察を行う。	B	初任者研修、10年経験者研修に職員を派遣した他、他校視察、オーストラリア視察を実施した。
地域連携の推進	地域活動の支援とボランティア活動の推進	研修内容の共有化と実践督励	研修報告、研修会復興、研修会資料配付を徹底する。	B	研修内容の複講及び研修資料配付の徹底については2学期と3学期に実施した。
		授業力の向上	全職員参加の研究授業、教科での授業観察等を実施する。	C	全教職員参加の研究授業と共に、教科の枠を超えて授業見学を実施した。
		合同練習会開催の推進	県内外の学校との合同練習会を積極的に行う。	A	アリーナを開放し合同練習を行ったことで、地域貢献及び広報の一助となった。
地域連携の推進	地域活動の支援とボランティア活動の推進	生徒・指導者の外部派遣	要請により本校職員及び生徒を派遣し地域貢献を推進する。	A	体育系部活動生徒及び職員を派遣し、要請に応えることができた。
		ボランティア活動の推進	各種ボランティア活動への派遣を推進する。	A	熊本城マラソン、地域の夏祭り、本校周辺の清掃等のボランティア活動を行った。
		各種大会の積極的な誘致	地域活動の支援を行い、本校の諸活動の活性化に努める。	A	尚絅杯ソフトテニス大会等を実施し、みなみ阿蘇野の花コンサートに参加した。

学校生活に関して「生徒」「保護者」にアンケートを実施しました。

○:よくあてはまる・ややあてはまる。 ●:あまりあてはまらない・全くあてはまらない。

生徒による評価				生徒による評価の総括
1	尚綱に入学して良かった	○ 70%	● 25%	<p>「1 尚綱に入学してよかった」と感じている生徒の割合は昨年度から7%増加している。一方で、「2 友人と仲良く楽しい学校生活を送っている」と感じている生徒の割合は2%減少している。これは、SNS等によるトラブルや担任によってクラス運営におけるトラブルに対するの早期対応ができていない為、友人関係が修復できていない等があげられる。その他の項目の肯定的な回答の割合は、「5 しつけ・礼法教育」の項目で1%減少している以外はほぼ全ての項目について増加している。</p> <p>今回のアンケート結果を真摯に受け止め、生徒が楽しい学校生活を過ごすと共に、女子校として更に礼法教育を推進するように全職員で改善に向けた努力が必要である。</p>
2	友人と仲良く楽しい学校生活を送っている	○ 91%	● 6%	
3	学力向上を目指して積極的に取り組んでいる	○ 79%	● 15%	
4	クラスマッチ・体育祭・文化祭など行事が充実している	○ 74%	● 21%	
5	しつけ・礼法教育に積極的に取り組んでいる	○ 81%	● 12%	
6	部活動が盛んである	○ 81%	● 10%	
7	施設・設備が充実している	○ 95%	● 1%	
8	掃除など環境美化に取り組んでいる	○ 85%	● 7%	
9	先生や来校者に挨拶がきちんとできている	○ 91%	● 4%	

保護者による評価				保護者による評価の総括
1	尚綱に入学させて良かった	○ 90%	● 7%	<p>「2 友人と仲良く楽しい学校生活を送っている」と感じている保護者は2%増加しているが、「1 尚綱に入学させて良かった」については否定的な回答が昨年度よりも1%増加しており、この2項目について、生徒と保護者の評価の増減が逆転している。更に、「3 学力向上を目指して積極的に取り組んでいる」という項目については、肯定的な回答が昨年度から更に4%減少している。</p> <p>また、「3 学力向上」と「7 進路指導」の項目は、肯定的な回答の割合が70%台であり昨年から更に減少している。生徒の学力と進路に関わる最も大事な評価であるにもかかわらず、毎年改善が見られないところに本校の根本的な問題があると考えられる。生徒の夢を実現する為にも教師の指導力と意識を高めて、学力向上と進路指導における取り組みは必須であり、全職員が意識して努力する必要がある。</p>
2	友人と仲良く楽しい学校生活を送っている	○ 94%	● 5%	
3	学力向上を目指して積極的に取り組んでいる	○ 75%	● 19%	
4	クラスマッチ・体育祭・文化祭など行事が充実している	○ 85%	● 10%	
5	しつけ・礼法教育に積極的に取り組んでいる	○ 88%	● 7%	
6	部活動が盛んである	○ 80%	● 11%	
7	進路指導が適切に行われている	○ 75%	● 15%	
8	施設・設備が充実している	○ 96%	● 3%	
9	掃除など環境美化に取り組んでいる	○ 87%	● 6%	

学校評価委員(保護者の代表・同窓生の代表)に評価をお願いしました。

- ・英語教育について、ICGの存在や英語科教員数が多いことは良い環境であり、対外的にもっとアピールしてよいと感じる。
- ・海外の修学旅行を実施することはよいことであり、若い時期に海外に行き経験することにより見識が変わる。また、ホストファミリーとして外国人生徒を受け入れると自分の娘の躰にもなり、よい経験が得られるので更に活性化して欲しい。
- ・吹奏楽部の創部は学校の活性化となると思うが、楽器が不足していることは大きな懸念材料となるのではないかと。特に、今後、特技特待生を勧誘することを考えると、更なる充実が求められる。
- ・防犯カメラが現在設置されていない状況だと聞いたが、女子の総合学園として生徒の安全の為に早急に設置するべきではないか。
- ・礼法教育の成果が、平素の生徒の様子や式典等での生徒の態度に現れており、同窓生として誇りに思う。
- ・生徒が使用している机・椅子が非常に古いと聞いているが、学校生活で最も頻りに使うものである。建物を新しくすることも大事だが、校内の充実も考えていただきたい。
- ・シャトルバスで通学できることはとてもありがたいが、高校2年から乗れないために困っていると聞いている。また、その為に尚綱を選択しないで他校に行った友人もいる。使用料を払ってもよいので他学年も他校のように乗せてもらいたい。最終便がほぼ空車の状態で出て行く様子をよく見かけるので、是非検討していただきたい。

## ■ 総合評価

## ① 教育内容の改革と尚絅らしさの追求

教育内容の充実については、生徒の現在の生活に直結した取り組みを中心に実施した。現在、社会の第一線で活躍している卒業生の講話や社会問題になっているSNSの危険性についての講話など、生徒の進路実現や実生活にすぐに役立つような内容を中心に実施した。しかし、学校教育の中で根幹となる魅力ある授業を追求すべき研究や自己研修ができていない。今後の大きな課題である。また、本校の一番の強みである「中高大連携の推進」については、大学・短大との連携が取れていなかったことによる課題も見えてきた。型にはまった会議ではなく、進路指導部とクラス担任を中心に今後の検討を行う。

## ② 生徒支援改革

様々な問題を抱える生徒が増加する中で専門のカウンセラーを配置して、クラス担任や保護者と連絡を取りあいながら生徒支援の充実をはかり、問題解決に取り組んでいる。深刻な問題については、担任、学年主任、カウンセラー、管理職でケア会議を定期的に行い、管理職より生徒・保護者と直接面談を実施している。また、進路指導の充実を図るため、教員の意識改革を含め授業改善の取り組みや研究授業等も実施しているが結果に結びついていない。次年度は、内容や研修を含め検討課題としたい。また、生徒が教育相談が気軽にできるような生徒と教師の人間関係作りを始め、進路や友人関係の問題についても相談できるような取り組みを学年・コースで検討して実践していきたい。

## ③ 学習意欲あふれる生徒の確保

意欲あふれる生徒確保のため、ナイト説明会や生徒広報部の立ち上げなど新しい試みも実施したが、生徒数増とはいかなかった。また、教員の意識改革の1つとして全職員が募集にあたることを徹底し、生徒獲得数を明示するなどの取り組みを行ったが、結果は10名増にしか届かなかった。また、特技特待生Bの人数枠の拡大や新しい部を創部して部活動においても特待生の勧誘に回るなどの取り組みを行い、手ごたえを感じたところもあり次年度に繋げたい。

## ④ 教育指導力の向上

大学入試改革に伴い、教師の指導力向上が急務である。研究授業や外部講師による指導も1年を通じて実施しているが、質の向上には至らない。反面、意欲も高く、教科指導力だけでなくクラス経営においてもレベルの高い若手の教員が増えつつある。この教員集団を中心に他校視察や相互授業研修会なども行い、少しずつ向上している。生徒・保護者の要望に応えられるような具体的な改善策が今後の課題である。

## ⑤ 地域連携の推進

他校にアリーナや10階ホールを開放し合同練習を行ったり、各種大会の主催者からの要請に応じて、会場として本学園を提供した。また、九品寺周辺の清掃ボランティアを始め、例年行われている熊本城マラソンには100名の生徒がボランティアとして参加して地域貢献への意識向上へと繋がった。しかし、街頭募金など、人目につくところでのボランティアが少ないため、尚絅をアピールする場があまりない。次年度は、ボランティア同好会だけでなく、全校生徒への働きかけを行っていく。

## ■ 2019年度への課題・改善方法

① 学校教育の中で大きな柱の1つでもある「魅力ある授業」を確立することが大きな課題である。その課題解決として、様々な研修会に参加して研究することは勿論、校内では教科会での研究授業を推進しながら、魅力ある授業推進のために定期考査の分析や授業アンケートを基によりよい授業改善に向けて取り組む。また、本校の強みでもある「中高大連携」を推進するために定期的な会議ではなく、学年・クラス担任と大学・短大の学科の先生方と共に具体的な問題を中心に検討して生徒の適性をいかに伸ばすかを中心に考えながら、進路指導のあり方についての自己研鑽を積み、指導にあたっていく。

② 2019年度の学校運営の柱の2つ目として、いかに意欲溢れる生徒を獲得するかという重大な課題が挙げられる。2019年度は広報部の大きな組織改革を行い、中学入試の変更や募集体制を変えて公立小学校、塾をはじめ、卒業生保護者の広報部を立ち上げて幅広い協力体制を築き上げる。また、広報部に若手の教員を多く配置して、従来の広報活動を一新して取り組む。